

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成28年度 第2号
2017年1月13日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館3F
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-326-1331 FAX: 075-326-1331 E-mail: office@kinkireh.com



代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

日本リハビリテーション医学会近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。また、近畿地方会幹事会を代表し、近畿地方会活動へのご協力に心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は久保俊一先生(京都府立医科大学)が会長となり公益社団法人日本リハビリテーション医学会(以下、医学会)学術集会在、7000名を超える参加者を得て、国立京都国際会館で「軌軌と融和」をテーマに開催されました。また、この学術集会上に前後して医学会の新執行部(理事、監事)の改選がありましたが、監事には菅本一臣先生(大阪大学)、理事には久保俊一先生、田島文博先生(和歌山県立医科大学)、道免和久先生(兵庫医科大学)、佐浦隆一(大阪医科大学)と近畿から5名の役員が選出され、さらに久保俊一先生が理事会一致で理事長に推薦、就任されました。

今、久保俊一新理事長のもと、医学会はめまぐるしいスピードで変わりつつあります。東京の医学会事務局も移転し、また、日本心臓リハビリテーション学会や回復期リハビリテーション病棟協会、日本理

CONTENTS

- ◆代表幹事の挨拶 1頁
- ◆新幹事の抱負 1-4頁
- ◆第4回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会開催報告 4頁
- ◆第53回日本リハビリテーション医学会学術集会上を開催して ... 5頁
- ◆第11回日本リハビリテーション医学会
専門医学集会上に参加して 6頁
- ◆第42回近畿地方会学術集会上開催にあたって 6頁
- ◆第42回近畿地方会学術集会上開催概要 7頁
- ◆2017年度近畿地方会研修会カレンダー 8頁
- ◆編集後記 8頁

療法士協会、日本作業療法士協会をはじめとするリハビリテーション関連職の学協会などにも働きかけ、医学会がリハビリテーション医学・医療におけるハブとなるための方針と施策が次々と発表、そして実施されています。

本年10月28～29日に開催される第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会上(会長 菅本一臣先生・大阪国際会議場)のテーマも「すべてがかわるリハビリテーション」です。

近畿地方会でも総会(平成28年7月2日)で新幹事会が選出され、引き続き私に代表幹事の任が与えられました。近畿地方会も医学会の変革に遅れることなく、財政基盤を強化しながら、さらに前に進みたいと考えています。そのためには、近畿地方会の会員の皆様の積極的なコミットメントが必要ですので、どうぞよろしくお願い致します。

新幹事の抱負 (掲載順不同)

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。



村田 顕也 和歌山県立医科大学 神経内科

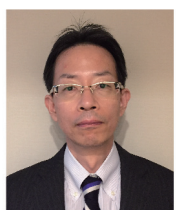


和歌山県立医科大学神経内科学講座の村田顕也でございます。このたびは、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事にご推薦いただき本当にありがとうございました。

私は昭和63年に香川医科大学(現香川大学医学部)を卒業いたしました。奈良県立医科大学で臨床研修後、同大学で神経内科・リハビリテーションの診療に従事し、平成17年に和歌山県立医科大学に赴任いたしました。本学では、神経内科に入院されたパーキンソン病や多系統萎縮症などの神経変性疾患に対して薬物療法に加え、早期から積極的なリハビリテーション介入を行っています。薬剤を使用しなくてもリハビリのみで症状改善が認められる症例もあります。また、筋萎縮性側索硬化症のリハビリにも積極的に取り組み、神経内科疾患の診断・治療から在宅医療までを含めた総合的な観点からのシステムを構築しています。また、研究面では田島教授のご指導のもと、筋疾患の嚥下障害、錐体外路疾患の姿勢保持の研究をリハビリテーション医学講座と共同して行い、科研費やその他の研究費も取得しています。このように、本学では、神経内科・リハビリテーション科が共同して、患者第一主義の医療を実践いたしております。今後とも、皆様のご鞭撻・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

**城戸 顕 奈良県立医科大学 リハビリテーション科**

このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地区幹事にお加え頂きました城戸顕と申します。私は奈良医大を平成2年に卒業、整形外科学教室に入局し骨軟部腫瘍・がんの骨転移・関節リウマチと骨系統疾患の遺伝子診断・分子治療を含む薬物療法・手術療法・リハビリテーションを担当して参りました。奈良医大では平成26年12月より（それまで中央部門であったリハビリテーション部を）標榜科としてのリハビリテーション科に改め、内科系および整形外科出身の専任教員にて診療を担当、私は平成28年6月よりリハビリテーション科診療副部長を務めさせて頂いております。目下すでに新臨床研修制度の基幹プログラムの整備、大学病院として果たすべき研究・教育の基盤づくり、WHO共同研究アシスティブテクノロジーWG、県医師会リハ医部会や県JRATの連携体制づくりなど課題は山積みで、正直私の立ち位置からはなかなか大きな視野が開けてこない現状ではありますが、幹事諸先輩方のご施設をお手本に足元を見据え、一つ一つの課題にしっかりと取り組む覚悟があります。諸先生方におかれましては、宜しくご指導頂きますよう心から御願い申しあげます。

**大野 一幸 堺市立総合医療センター 整形外科**

堺市立総合医療センターは平成27年7月に堺市西区家原寺町に新築移転しました。二次医療圏である堺市で唯一の災害拠点病院で、近隣の市を含めて約90万人の救急医療を担当することになっています。現職は3次救急の現場で整形外科の中でも重傷四肢外傷の治療を担当しております。救急医療ではPreventable trauma deathの減少を目標に多くの施設で救命医が努力されており、少なくなっており、今後はPreventable trauma disabilityを減らすことが大きな目標となっております。リハが受傷早期から介入することが、できるだけ受傷前のADLに近づけるためには重要と思われます。当院は独立したリハ科としては標榜していませんが、多くのPT、OT、STの方が熱意を持ってリハに取り組んでいます。救急搬送された症例にはまずこの3職種が評価して、必要なリハを継続するシステムが構築されており、非常に時間の流れの早い救急病院で十分なリハを受けられない症例がないようにしています。リハマインドを持った救急整形外科医として、頑張る所存です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

**三原 雅史 大阪大学国際医工情報センター**

この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を拝命いたしました大阪大学の三原です。私はこれまで研究面では神経リハビリテーション、特に神経疾患に対するリハビリテーションによる機能回復メカニズムの研究などをテーマに研究を行っており、脳卒中患者や神経変性疾患患者での機能回復を促進させる新たな治療法の開発をすすめています。また、臨床面では回復期リハビリテーション病棟および大学病院における急性期リハビリテーションを中心に、リハビリテーション医療に携わるとともに、教育面では大学病院などで指導医として後進の育成に努めてまいりました。高齢化の進展、地域包括ケアの導入や新専門医制度の導入など、医学会を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、リハビリテーション科医の果たすべき役割はこれまでに大きく変わってきていると感じております。近畿地方会に所属されておられますリハビリテーション科医の先生方のお役に立てますように、微力ではありますが、全力で取り組みたいと考えております。今後とも宜しく御願い致します。

**沢田 光思郎 京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学**

この度、新たに幹事の大役を拝命いたしました沢田でございます。現在、平成26年に開講しました京都府立医科大学リハビリテーション医学教室の医局長として、学内外の先生方のご支援をいただきながら、臨床・教育・研究体制の整備を行っております。臨床では、関連各科医師、開業医の先生方も含めたリハビリテーション医療の向上と均てん化を目指します。教育では、学生、研修医、専攻医の教育システムの充実による地域内外のリハビリテーション科医師のネットワーク構築を目指します。研究では、学生、他科医師、関連専門職も魅力を感じる新たなリハビリテーション医学の基礎・臨床・先端技術の開発を行う所存です。

このような活動を通して、近畿地方会はじめ日本リハビリテーション医学会の発展に寄与できるよう精進して参ります。私もこれからますます勉強が必要です。今後とも近畿地方会の先生方の厚いご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



今井 晋二 滋賀医科大学 整形外科 リハビリテーション部



今年度、我が国の医療界で最も大きかったトピックの一つに新専門医制度がある。結局、各方面の調整が間に合わず、2017年度からの開始は見送られた形となったが、2018年度開始に向けて、今後更に議論が深まっていくことは必至である。リハビリテーション医学は、高度急性期病院から全国津々浦々の回復期病棟、療養病棟に至るまで、その医療資源の提供と教育には、広い多様性が要求されている。次世代のリハビリテーション医学を担う世代のリハ医には、ロボットリハビリテーションなど先端医療を担えるような教育や研究が要求される一方で、拡大し続ける高齢者人口の機能回復と地域・在宅医療の担い手となる教育や訓練が要求されている。このように広く国民保健がリハビリテーション医学に依存する領域・分野は今後更に深化していくと考えられる。日本リハビリテーション医学会は今後、縦断的かつ横断的に拡大・深化しつつあるリハビリテーション医学の教育・研究・臨床の舵取りに大きなミッションを負う。浅学菲才の身ではございますが、少しでもそのミッションのお役に立つことができれば幸甚と存じ、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事として精進する所存です。



西村 行秀 和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学



和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座の西村行秀と申します。

私は平成8年に浜松医科大学を卒業し、現在は和歌山県立医科大学リハビリテーション医学に勤務しております。本年度は新たに4名の新入局者(3名は初期研修修了者、1名は他科からの転科医師)を当大学に迎え、来年度は4名の新入局者を迎え入れる予定です。まだまだ和歌山県にはリハビリテーション科専門医が少ないですが、さらに良い臨床、研究、教育を行うことができるよう努力して参ります。現在、リハビリテーション医学会理事長の久保俊一先生(京都府立医大)と近畿地方会代表幹事の佐浦隆一先生の強いリーダーシップとご指導のもと、近畿地区はリハビリテーション医学・医療において日本中でもっとも活気のある地区です。臨床においても研究、教育においても、今後ますますこの近畿地区から発展していくことが重要です。この伝統あるリハビリテーション医学会近畿地方会に貢献できるよう、またさらにリハビリテーション医学・医療が発展できるよう微力ですが努力致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



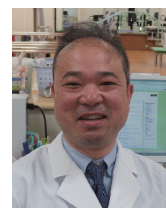
奥田 佳延 多根脳神経リハビリテーション病院



このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を務めさせていただくことになりました。私は、1990年後半～2000年前半は、大阪大学医学部の神経内科学教室に属し、主に多発性硬化症の基礎～臨床研究に従事しておりました。2005年からは大阪市西区にある多根総合病院の神経内科で、脳卒中を中心とした神経疾患の急性期医療に携わりました。2008年からは、諸般の事情で当院に異動となり、本格的に回復期リハビリテーションの領域に入り込むことになりました。リハビリテーション科専門医となったときには、「知識と経験を蓄え、自信を持ってリハビリテーション専門医と名乗れるようになりたい」などと言っていたのですが、依然そのレベルには遠いと言わざるをえません。まだキャリアも浅く、日常業務に明け暮れているだけで、特別な活動をしているわけでもありません。このように浅学菲才の私ですが、幹事を拝命したからには、皆様のお役に立てるように努力する所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。



池口 良輔 京都大学医学部附属病院 リハビリテーション科



この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会新規幹事に就任させていただきました池口良輔と申します。私は平成5年に京都大学を卒業後、整形外科に入局し、手の外科、マイクロサージャリー、外傷外科を専門として参りました。平成26年4月より京都大学リハビリテーション科に勤務させていただいております。手外科とリハビリテーションとは関係の深いもので、手術療法のみでは治療は成り立たず、リハビリテーションをやっていただける環境があつての手術であり、今までリハビリテーションの重要性を認識しながら診療にあたってきました。現在、リハビリテーションは運動器疾患だけでなく脳卒中、神経筋疾患、心疾患、呼吸器疾患、がん、小児疾患、血液疾患など対象疾患が広く、病院の中でも科としては患者数が最も多く重要な科であります。今後は診療のみならず、研究活動、若手医師の育成とリハビリテーション近畿地方会の発展のために少しでも貢献できるよう尽力していきたいと思っております。今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



内山 侑紀 兵庫医科大学ささやま医療センター 地域総合医療学 リハビリテーション科



私は2007年に京都府立医科大学を卒業し、2009年に兵庫医科大学リハビリテーション医学教室に入局致しました。現在は兵庫医科大学ささやま医療センターに勤務し、主に地域医療における急性期・回復期・在宅期までステージの隔てないリハ診療に力を入れています。研究面では、ニューロリハビリテーションを中心としたCI療法、ボツリヌス療法、ロボットリハなどの新たな治療法に取り組んでいます。

学会活動としては、最近では国内学会だけでなく、国際学会にも積極的に参加しておりますが、国際学会に参加するたびに日本のリハは世界に誇るべき素晴らしいものという実感が増しております。ご存知の通り2019年は日本で初の国際リハ医学会が私たちの地元神戸で開催され、さらに国内学会も同時開催されるという大イベントが待ち受けています。近畿地方会の皆さまともこれまで以上に結束を固め、日本のリハを近畿から世界に発信していくきっかけになればと期待しております。まだまだ若輩者ではございますが、リハ医療発展のため少しでも貢献できるよう精一杯尽くして参りますので、近畿地方会の皆さまには今後ともご指導ご鞭撻の程賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第4回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会開催報告 西宮協立リハビリテーション病院 勝谷 将史

平成28年12月3日兵庫医科大学9-1講堂にて第4回近畿地区新専門医・若手リハ医交流会を開催いたしました。昨年までは新専門医を中心とした交流会でしたが今年度からは新専門医だけでなく、今後リハ専門医を目指す若手リハ医の方々にも声をかけ新たに新専門医・若手リハ医交流会として、近畿地区のリハ医の交流を深める事を目的としました。

本年度は近畿地方会所属の先生より25名の新専門医が誕生いたしました。しかしながらリハビリテーション科専門医の数は充足しているとは言えません。さらに地域的な偏りや専門医を目指す若手の中には1人で奮闘されている方も多いようです。先輩医師からのサポートはあっても、大学や病院の枠を越えた横の繋がりも新専門医や若手リハ医のサポートになるのではないかと考えます。

今年度の参加者は25名、またお忙しい中、兵庫医科大学の道免教授、大阪大学の菅本教授、神戸大学の酒井教授、専門医会幹事長の大串先生にも御参加頂きました。会の冒頭、道免教授からご挨拶頂き慶應大学時代の関東若手リハ医の会のお話をお聞きました。菅本先生からは来年の秋期学術大会のお話も含めてご挨拶いただきました。新専門医・若手リハ医の方々からは自己紹介を兼ねて4名の先生が登壇、プレゼンしていただきました。兵庫医科大学の山下泰治先生からは「バランス練習アシストを用いたリハビリテーション」と題しパーキンソン病に対するロボットリハの効果なども交えてお話いただきました。公立甲賀病院の平田知大先生からは「滋賀県におけるリハビリテーション医の課題」と題して滋賀県におけるリハ医の現状を地理的な視点と人口動態も絡めて鼓舞奮闘している現状を、京都府立医科大学の小田良先生からは「京都府立医科大学附属病院リウマチセンターの取り組み」と題しピアニストの患者さんの治療も交えて紹介していただきました。西



記念ポートアイランドリハビリテーション病院の小林慶通先生からは「神戸大学リハビリテーション科の紹介」と題し炭酸ガス経皮吸収を利用したリハビリテーションなど神戸大学リハビリテーション科の特徴をお話していただきました。

続いて参加された先生方には一人ずつ自己紹介を兼ねたプレゼンテーションをしていただきました。近畿大学の大洞佳代子先生からのプレゼンテーションでは医工連携や総合大学ならではの近大マグロや近大マンゴー・近大みかんなどの話で盛り上がり、京都府立医科大学の寺内竜先生からは整形外科ならではの症例を動画を交えてプレゼンを、その他関西リハビリテーション病院、西宮協立リハビリテーション病院、姫路赤十字病院、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターからも若手の先生が参加され経歴の紹介やリハ医を目指した理由、今後の抱負などを楽しくプレゼンしていただきました。懇親会では神戸大学の酒井教授からお挨拶いただき、食事をしながら交流を深めました。来年度も若手リハ医を交え大学や病院の枠を越えた交流を深めることで後進育成の一助となればと思います。